

項目ごとの評価（中・小項目とも） ４段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成すること。	中期計画策定や学校案内作成において、その意義を職員全体で確認した。	B		建学の精神を慮りながら、本校の特色を活かした教育活動ができたか。	自学自習の重要性を伝えながら、社会のリーダーとなる人材の育成に努める。
		② 教育計画について	第二期SSHの３年目の教育活動を計画に基づいて進めること。また、学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程の編成に着手すること。	SSHについてはコロナ禍のなかにあつて、ベトナム研修などが実施できなかったが、代替研修を実施するなど、当初の目的を達成するよう努力した。SSH中間評価では「各評価項目の内容が概ね達成できている」であつたが、本校独自の特徴に弱さがあつた。また、高校の新教育課程編成は順調に進んでいる。	B	B	SSH活動を計画どおりに推進できたか。学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程の編成に着手することができたか。	SSHについては、課題研究を充実させるために、ループリックに基づいた評価をHPで公開するとともにその実践をさらに進めていく。コロナ禍の中での取組を充実させる。高校の新教育課程については、今年度作成した原案を、学校全体として検討を重ね決定する。
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	６カ年を見通して、各学年および各教科において、学習指導計画を策定し、その計画に基づき授業を実施すること。	中１・中２の英語・数学の授業で少人数授業を継続して実施している。学習計画については、郡山中高のスタンダードが定まらず、教科の統一感をより強化する必要がある。	C		各教員が学習指導計画に基づいた教育活動を実践したか。	中学校においては、各教科の基礎的な内容を確実に身に付けさせるための指導方法や取組について、シラバスを基に工夫する。また各学年・コースの目指す姿の明確化に取り組む。
		② 指導方法の工夫	学習指導方法の改善に努めること。	年２回、教科ごとに研究授業を実施した。また、ICT教育環境が整い、タブレット及びプロジェクトを活用した授業を実施できつつある。今後はより効果的な活用方法とAL型授業展開の研究が必要である。	B	B	課題意識を共有しながら、学習指導方法の改善に努めることができたか。	授業におけるICT機器の活用について研究・実践を継続するとともに、AL型授業展開の研究を進める。
	(3) 道徳 (人権教育)	道徳(人権教育)について	人権感覚や規範意識を身に付けるように指導計画を作成し、人権教育活動を実施していくこと。	人権教育部による「心のプリント」を毎月配布することを通して、左記の目標の実現に努めた。また、中学校「特別な教科道徳」の３年間を見据えた指導計画への改善が求められる。	B	B	左記目標の指導計画に基づいた人権教育活動を実践できたか。	中学校での「特別な教科 道徳」の今年度の実践を振り返り、確かな年間計画を構築する。
	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	自主的かつ主体的に行動できる人物となるよう、生徒会指導部を中心に、適切な指導と助言をおこなうこと。	コロナ禍のなかで、生徒会役員・文化祭実行委員会を中心に生徒自らが「新しい生活様式における文化祭」を企画・運営し、自主的かつ主体的な力を存分に発揮してくれた。	A	A	生徒会活動が自主性・主体性を育む活動だったか。	コロナ対策について生徒自らに考えさせ、一層自主的、創造的な活動をさせたい。
		② クラブ活動について	クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育てていくこと。	近畿大会や全国大会が中止となり、不完全燃焼となった生徒も少なからず存在した。そうした中でも目標を見失わずよく頑張りがつづけることができた。	B		クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、礼儀や協調性を育むことができたか。	運動・文化部活動の在り方に関するガイドラインを踏まえつつ、本校の特色である文武両道を今後も実践していく。
	(5) 総合的な学習の時間の指導	特別講座・「卒業論文」について	広い視野を養い、興味・関心を高めるために、学外から有識者を招聘した特別講座等を実施する。また、中３における卒業論文の指導を工夫する。	左記目標にも掲げた特別講座を実施した他、中３時に生徒一人一人が「卒業論文」を制作した。また、SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義や公開講座を開催した。	A	A	「卒業論文」制作における指導の他、生徒の興味・関心を高める特別講座を企画・実施できたか。	第二期SSHにおける高校での課題研究につながるよう「中学卒業論文」の指導を行い、その充実を図る。
	(6) 生徒指導	① 生徒指導について	集団生活のマナーやルールを理解させ、基本的な生活習慣を確立させることで、社会の範となるべき人物の育成に努めること。	学級活動やホームルーム活動等を通して、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。しかし、特に中学生においては徹底するには至らず、いじめ事案が発生した。	C		集団生活のマナーやルールを理解させ、基本的な生活習慣を確立させることができたか。	中学校における基本的生活習慣の向上を図り、集団における自分を自覚させる取組を展開する。いじめは許されない行為であることを徹底して理解させるとともに、いじめ認知の精度を高める。
		② 教育相談等について	中学・高校という思春期特有の多様な悩みを持った生徒に対し、教育相談の体制を充実させるとともに、その支援を図っていくこと。	日常の教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めているが、まだまだ十分とは言えない。	C	C	教育相談の体制が十分機能しているか。	スクールカウンセラーと学年・学級担任との間でより緊密な情報交換ができるよう、中高それぞれに教育相談コーディネーターを位置づける。また、生徒指導情報共有システムを導入し、教員間の情報共有体制を改善する。
	(7) 進路指導	進路指導について	生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施すること。	各学年において、補習・外部模試等を実施。コロナ禍のなかで、恒例の中３・高１を対象とした東大・京大見学会は中止となった。高２生を対象とした冬季セミナーは通いで実施。	B	B	学力養成のための取組が実施できたか。	大学入試改革への対応の一つとして、学習や課外活動等の取組や成果などについて、ポートフォリオ化をより充実させていく。」また、進学セミナーのさらなる充実を図る。

【 奈良学園中学校・高等学校 】 令和元年度 学校自己評価書 II 学校経営に関するもの

項目ごとの評価（中・小項目とも）4段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善
II 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催することで、全教職員が課題意識を共有できるように努めること。	左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。ただ、担任と学年主任との報告・連絡が十分でない場面もあった。	B	B	教職員による情報や課題意識の共有化を図ることができたか。	校務運営委員会の構成メンバーに各学年主任を加え、課題意識や情報の共有化を図る。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	教職員の資質及びスキルを高めるため、校内研修を実施していくこと。	教務部の主導による研究授業を実施することができた。また、講師を招聘してのいじめ問題に関する研修会を2回実施した。定期的な人権研修をおこなった。	A	B	教職員の資質・スキルを高めるための校内研修を実施できたか。	新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた各種の研修会を実施するよう努める。
		② 校外の研修への参加	教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加していくこと。	予備校が主催する学習指導スキル向上等の研修会はコロナ禍のなかで、多くがリモートによる実施となったが、のべ30名の教員が参加した。また、他校での研究会に参加した教員もいる。	B		資質・スキルを高めるため、校外での研修に教職員が積極的に参加したか。	教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していくことが必要である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	生徒が安全で安心して過ごせる環境作りを計画し、教職員は常に安全管理の意識を持って行動すること。	防災避難訓練では、火災を想定し、シェイクアウト訓練もおこなった。また、熱中症等を防止するための救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を継続実施した。	A	A	防災の意識を持って、教育活動に従事できたか。	防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、工夫しながら実施していく。特に自転車マナーについての指導を徹底して行う。
	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	生徒の、健全な心身の発達を促し、そのために必要な情報の収集及び実践をおこなうこと。	健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、研修旅行(中3)における食物アレルギー事故防止に努めた。	B	B	保健指導等を通して、生徒の健全な心身の発達に寄与する教育活動を実践できたか。	スクールカウンセラーと教職員との情報交換を定期的 to 実施する。また、生徒指導共有システムの効果的な活用を工夫する。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動をおこなっていくこと。	コロナ禍にあつて十分に地域との連携行事ができなかった。ただ、今年度から「近畿SSH環境活動フォーラム」を本校主催で実施し、里山の再生整備について学術交流ができたことの意義は大きい。また、地域の中学校の生徒指導担当者と定期的に情報交換を行い、連携を図った。	B	B	地域とのつながりを深めることができたか。	近隣住民の学校に対する信頼を深めるためには、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。
		② 保護者・育友会との連携について	保護者との懇談や面談を通じて、保護者と学校との共通理解を図る。	前期に1回、後期に1回、学年ごとに保護者会をもち、学校と保護者の相互理解を図った。育友会活動がなかなか実施できないなかで、育友会の役員の方と学校管理職との懇談の場を4回設けることができた。	B		保護者と学校との共通理解を図る場を設けることができているか。	育友会行事等を通して、保護者に本校の教育をより理解していただくとともに教職員と育友会との連携を深める。本部役員との定期的な懇談を計画する。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	全教職員で連携を取りながら、学習環境を整備していくこと。 また、既存の教育施設の補修にも力を注ぐこと。	昨年度から3カ年計画で着手したICT教育設備推進事業を計画どおり進めることができた。また、必要に応じて、既存設備の改善・補修に努めた。	A	A	教育環境の整備を進めることができたか。	ICT教育設備推進事業の成果を生かした教育活動を実践する。
	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について(未)	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則り、個人情報の管理について周知徹底をおこなうこと。	個人情報管理については、全職員に注意徹底を図るよう促し、適切に対応できた。	A	A	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則った個人情報の管理ができたか。	常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。
		② 情報の提供について	HP等を通して、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供に努めること。	HP上で、学校行事等の様子を伝え、情報提供に努めた。	A		HP等を通して、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をおこなうことができたか。	HPを刷新し、外部の方にもわかりやすい情報発信に努める。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	本校の特徴やよさを保護者や子どもたちに知っていただけるよう、広報活動を行うこと。	コロナ対策の観点から、少人数による学校見学会を実施した。また、在校生による学校説明も効果的であり、本校のよさをより知っていただくことができた。また、中学入試の出願者数については、昨年度より12%増加した。	A	A	本校の特徴やよさを、保護者や子どもたちに知っていただくことができたか。 応募状況はどうであったか。	学校案内リーフレットやDVDを改善するとともに、本校の特徴やよさをより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行う。
		② 入試事務について	入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など、入試全般にわたる作業を滞りなく実施すること。	守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。また、Web出願・採点方法を改善により、入試事務をより円滑に進めることができた。	A		入試全般にわたる作業を滞りなく実施することができたか。	今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。